

賑わい拠点 なないろひろば（宮城県七ヶ宿町）

～町主導で取り組む熱利用（入浴施設、ロードヒーティング）とチップ供給～



概要

- ・七ヶ宿町は9割が山林で占められており、豊富な森林資源を活かし、町主導で地域の賑わい拠点「なないろひろば」を整備。
- ・賑わい拠点には多目的交流施設や物販施設などのほか、木質バイオマスを利用した入浴施設（wood&Spa や・すまっしゅ）があり、三セク（七ヶ宿まちづくり株）が指定管理者として運営。隣接する国道等の融雪熱源として温水も供給。
- ・併せて、町が木材チップ生産施設を整備し、地元業者が設立した事業体（七ヶ宿バイオマスチップ株）が指定管理者となり、拠点施設へ木材チップを安定的に供給することによって、木質バイオマスエネルギーの地産地消を実現。

①ボイラー

KWB社製
パワーファイア
300kW



②燃料種

木材チップボイラーの
排熱を利用して
チップを乾燥



③燃料の価格動向等

町が整備した木材チップ
生産施設からの調達であり、
おおむね横ばいで推移



④燃料の安定調達の有無

地元のチップ生産施設
から安定的に調達
不足分（特に冬期）に
ついては、県外からの
調達ルートを確認



⑤成果

- ・地域の賑わい創出（雇用、観光）
- ・木質バイオマス利用を通じた森林整備の推進



【導入後の問題点等】

- ①燃料チップをボイラーに送り込むベルトコンベヤーのピットにダストが溜まり、ボイラーが停止。
- ②高水分のチップを燃焼させ、ボイラーが停止。
- ③導入当初、木材チップを県外からも購入しており、安定調達に懸念。



【対処策】

- ①定期的なメンテナンス・清掃等を確実に実施。停止時は重油のバックアップボイラーで対応。
- ②2槽のサイロを使い分け、低水分のチップから利用（もう一方は排熱で乾燥）。
- ③町主導で地元で木材チップ生産施設を整備し、地域の森林資源を原料としたチップを安定供給。

事業継続に向けた取組・課題等

- ・地域の森林から将来にわたり継続的・安定的に木材チップを確保するためには、森林所有者の森林資源の循環利用に対する理解の浸透が課題。木質バイオマスの地産地消が地域振興につながることを意識啓発や、森林経営管理制度を活用した計画的な森林の整備が重要。
- ・上記施設へ町から運営委託費が交付されており、一層の効率的な運営（チップ生産含む）が求められている。

問合せ先

七ヶ宿町農林建設課 TEL 0224-37-2113 shichi22@town.shichikashuku.miyagi.jp/
七ヶ宿まちづくり株式会社 TEL 0224-26-6681 https://7kashuku.jp/

熱利用施設（入浴、ロードヒーティング）、木材チップ生産施設の現況

賑わい拠点「なないろひろば」に木質バイオマスボイラーを設置。拠点内の入浴施設の加温をはじめ、ガソリンスタンドや隣接する国道のロードヒーティングに利用。また、町主導でチップ生産施設を整備・運営し、木材チップを安定的に供給。



入浴施設「wood&Spa や・すまっしえ」

- 01/入浴施設は県産材をふんだんに使用
- 02/ボイラーで発生した熱は、入浴施設のほかロードヒーティングにも利用
- 03/木材チップ生産施設では、町内の森林で生産された原木を加工
- 04/移動式チップパーを導入しており、山土場でのチップ加工にも対応

01



入浴施設内部の様子

02



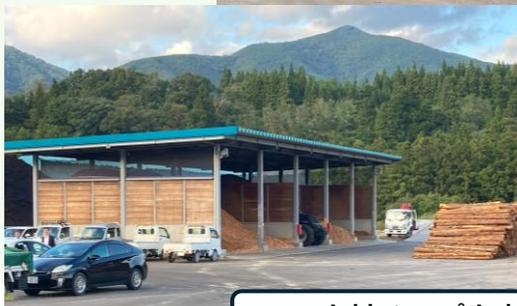
ボイラー、サイロ（2槽）

03



ロードヒーティング（国道・GS）

04



木材チップ生産施設



移動式チップパー